

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区上北沢 1 - 3 2 - 3
園名	松沢保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

うきうき！わくわく！外遊び

<テーマの設定理由>

園庭の環境づくりに取り組んできた。特に自然物や遊具(可動式遊具含む)など子ども達が自分で使いたい時にすぐ手に取れるように、興味関心が湧いてくるようなという思いで整備をしてきているが、なかなか整備が出来なかった。この機会により子ども達の好奇心・探究心をくすぐり、試したり創造したりできるような外遊びの環境充実を図っていききたい。

2. 活動スケジュール

通年 主体的に外あそびを楽しもう
6～7月 自然物を使った色水遊びで発見しよう(色水遊び)
7～8月 砂や泥に触れ、工夫して遊ぼう(水路あそび)
10月 いつでもできるよ 太鼓橋(乳児クラス)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

外遊具倉庫の新設を新設し、外あそびワゴンやマット、ついたてなどを収納
子どもたちが自分たちで選んで取り出せる収納とした。
色水遊び2セットには、すり鉢やすりこぎ、ティーカップ、ティーポットなどがあり、日よけ
傘付テーブル3台も設け、色水遊びからごっこ遊びに展開するよう設定した。
水路セットでは、砂場で水路を子どもたちで創造し工夫してつなげ、水を流す遊びができるようにした。
乳児太鼓橋は、常設いつでも自分たちが好きな時に昇降できるよう設置した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① どんな色になるかな？
～様々な草花を使って色水あそび～
- ② つなげて作るよ、水の通り道
～砂や泥あそび～
- ③ いつでもできるよ 太鼓橋
～乳児運動あそび～

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ① 「草と花で水の色はどんなふうに違うのかな？」という保育士の問いかけに、「葉っぱは、みどりだから緑だね。」「でもちょっと茶色にも似ている」というやりとりや、朝顔やおしろい花を使って、すり鉢でとすりこぎでこすっていくと、「ピンクだ～！」「こっちは青になったよ」ときれいな発色に喜ぶ。「混ぜたらどうなるかな？」とさらに保育士が問いかけてみると「やってみよう！」と自分たちで混ぜてみる。「あっ！むらさきになった！」と色の変化に驚く様子や他の花や草だとどうなるかな？と更なる探求心が芽生えていた。



- ② 砂場では、大きな山を作ってそこに、水路セットを運んでくる。
「こことここをつなげよう」「ここから曲がる路にしよう」と子ども同士、思いを伝えながら水路を完成させた。「水を流そう！」と実際流してみると、うまく流れない所があった。「なんで流れないんだろうね」という保育士の問いに「こっちのほうが高くなっちゃてるからかも！」と一人の子が高低差に気づき「ここを直そう」と協力して作り直していた。繋げ直すと、水が流れはじめ、「やった～」と喜び合う。
「もっと長くしたいね」と次への期待や意欲につながっていった。

③ビールケースなど園庭に置いてあるが乳児クラスの子が登ろうとすると、「危ない」と止めてしまうことが多い。1, 2 歳児の子どもたちの「登りたい」という要求を叶えるには、乳児向けの固定遊具が園庭に常設し安全にいつでも登っていい環境を作りたいと保育士同士で話し合い、乳児用太鼓橋を設置した。下に芝生マットも敷き安全に配慮した。本当に常設して安全なのか保育士の不安があったが、1 週間経つ頃には、子どもたちの身のこなしも上達し、園庭に出ると入れ替わり立ち代わり、好きな時に登ったり下りたりしている。

固定遊具の「今はできない」を無くしたことは大きな環境の変化となった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・振り返りでは、保育士同士、活動中には聞こえていなかった子どもの声や、見えていなかった姿を知ろうというきっかけにもなり、活動を振り返りながら、子供たちの姿を言葉にして語り合う中で、「こういう変化があったよ」「この子はこんな考えを持っていたんだね」といった発見をしながら、次の活動のヒントを得ることができた。
- ・子供たちの探究している様子を見守り、待つことの大切さや環境の構成の大切さに改めて気づき、考えるようになった。
- ・素材の設定から遊びが展開し、遊びの幅が広がることを再認識した。
- ・言葉の一つひとつを保育者が受け止めることで、子供の感性や遊びが広がるのだと活動を見ていて思った。
- ・安心して「探究活動」ができる環境を作り、手を出しすぎずに子供たちを見守るという時間は、保育者にとっても、子供たちにとっても大切な時間だと改めて思えた。
- ・幼児クラスだけでなく、乳児クラスの子どもたちの声や姿、それを叶える大切さ、楽しさ、充実感を感じ、保育士同士が子どものためにもっとこうしたいという、こんな環境にしたいという保育士の主体性も育まれていることに気づいた。